# デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 11 月 2 日(月)　発行：ていネコの投資ノート

※本レポートは 2026 年 11 月 2 日(月)17 時台(日本時間)までに確認できた数値に基づく。東京市場は 11 月 2 日の大引け、米国市場は 10 月 30 日(金)の終値、アジア市場は 11 月 2 日の終値。東証プライムの売買代金・売買高は概算値。

## 1．本日のサマリー

■ 日経平均は 208.25 円安の 63,081.86 円、TOPIX は 34.79 ポイント安の 3,930.28 でともに続落した。下落率は日経平均の 0.33%に対し TOPIX は 0.88%と大きく、東証プライムの値下がり銘柄は 1,011 と全体の約 3 分の 2 に達した。

■ 前週末の米国でインテルの弱い業績見通しとアマゾンの AI 投資拡大が嫌気され、SOX 指数が 7.20%急落。朝方の日経平均は 500 円超下げたが、好決算の東京エレクトロンとアドバンテストの 2 銘柄だけで 444.61 円押し上げ(筆者算出)、指数の下げを抑えた。

■ 半導体関連の中で明暗が分かれた。製造装置の東エレク、アドバンテスト、レーザーテックが買われた一方、決算が市場予想に届かなかったキオクシア HD が 15.8%安(筆者算出)と急落し、SCREEN、イビデン、ソフトバンク G も売られた。業種ではガラス・土石、食料品、電気・ガスが上昇した。

■ 売買代金は 7 兆 6,403 億円と 8 兆円を下回った。3 日の米中間選挙と東京市場の祝日(文化の日)を前に持ち高を傾けにくく、休場明け 4 日は選挙結果、米 ISM 非製造業景況指数、6 日の米 10 月雇用統計が焦点となる。

## 2．主要指標

| 指標 | 水準 | 前日比 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 日経平均 | 63,081.86 | -208.25 | -0.33%、続落。始値 62,972.02 |
| TOPIX | 3,930.28 | -34.79 | -0.88%、続落 |
| 東証プライム売買代金 | 7 兆 6,403 億円 | | 概算。売買高は 23 億 2,819 万株 |
| 値上がり／値下がり | 505／1,011 | | 変わらず 36(東証プライム) |
| 新発 10 年国債利回り | 2.770% | 0.000 | 前営業日と同水準 |
| 長期国債先物 12 月限 | 126.71 円 | -0.03 | 寄付 126.82 円 |
| ドル円 | 157.78 円 | +0.17 | 東京 15 時台、円安・ドル高 |
| ユーロ円 | 176.45 円 | +0.15 | 東京 15 時台 |
| NY ダウ | 51,770.31 | -572.25 | 10 月 30 日、-1.09%、続落 |
| S&P500 | 7,580.07 | -140.32 | 10 月 30 日、-1.82% |
| ナスダック総合 | 25,437.00 | -747.72 | 10 月 30 日、-2.86% |
| SOX 指数 | 10,688.80 | -829.40 | 10 月 30 日、-7.20%、続落 |
| 米 10 年債利回り | 4.93% | | 10 月 30 日、前日比は出典間で相違 |
| WTI 原油(12 月限) | 104.12 ドル | +2.12 | 10 月 30 日、+2.08% |
| NY 金(12 月限) | 3,898.9 ドル | -132.5 | 10 月 30 日、-3.29% |
| 韓国 KOSPI | 5,859.08 | +128.34 | +2.24%、反発 |
| 上海総合指数 | 3,638.03 | +39.01 | +1.08%、反発 |
| 香港ハンセン指数 | 23,393.32 | +98.90 | +0.42%、続伸 |

## 3．株式市場

### 寄り付きは 500 円超安、後場に一時プラス圏

日経平均は 318.09 円安の 62,972.02 円で寄り付き、下げ幅は一時 500 円を超えて 6 万 3,000 円を割り込んだ。前週末のシカゴ日経平均先物(円建て)が 62,600 円まで下げていたことから、寄り付きはその水準を織り込む形で始まった。その後は売りが一巡し、後場には押し目買いで 13 時半ごろに一時プラス圏へ浮上したものの、戻りは続かず大引けにかけて再び売りが優勢となった。

### 決算で分かれた半導体関連

最大の押し下げ要因は、決算が市場予想に届かなかったキオクシア HD で、終値は 11,345 円と 2,125 円安、日経平均を 150.43 円押し下げた。リクルート HD(-124.39 円)、SCREEN(-58.17 円)、ソフトバンク G(-57.44 円)、電子部品の京セラ(-43.42 円)も重荷となった。一方、今期(2027 年 3 月期)の利益見通しが市場予想を上回った東京エレクトロンが 248.28 円、アドバンテストが 196.33 円、レーザーテックが 40.72 円の押し上げ寄与となり、同じ半導体関連でも決算内容による選別がはっきり表れた。

### 内需・ディフェンシブに資金、商い低調

業種別ではガラス・土石製品、食料品、電気・ガス業が上昇し、倉庫・運輸関連業、サービス業、精密機器が下落した。個別では第一三共、サッポロ HD、三越伊勢丹 HD など内需・ディフェンシブ色の強い銘柄が買われ、メガバンクやキーエンス、日立製作所は売られた。米中間選挙を翌日に控え、東京市場も祝日で休場となるため、持ち高を一方向に傾ける動きは限られた。

### 前週からの変化

日経平均は 10 月 27 日から 29 日まで 3 日続伸し、29 日には 64,659.47 円まで上昇したが、30 日に 1,369.36 円安と 4 日ぶりに大幅反落し、この日も続落した。29 日に 13 兆 8,657 億円まで膨らんだ売買代金は、30 日の 8 兆 4,659 億円を経て 7 兆 6,403 億円まで細った。AI・半導体株が一斉に買われた局面から、決算内容で銘柄を選び分ける局面へと、市場の性格が移りつつある。前週末のシカゴ日経平均先物(62,600 円)と比べると、現物の終値は 481.86 円高い水準にあり(筆者算出)、米国株安の衝撃は寄り付き段階でほぼ吸収された形となった。

## 4．本日の主題：半導体の「明暗」が覆い隠した TOPIX の弱さ

この日の日経平均の下落率は 0.33%にとどまったが、TOPIX は 0.88%下げた。日経平均の構成銘柄のうち値上がり銘柄の寄与合計は 605.17 円、値下がり銘柄は 813.42 円で、差し引き 208.25 円の下落となる。このうち東京エレクトロンとアドバンテストの 2 銘柄だけで 444.61 円を押し上げており、2 銘柄を除けば日経平均は 652.86 円、率にして 1.03%下げていた計算になる（筆者算出）。指数の見かけの底堅さは、ごく一部の値がさ株によって作られていた。

背景には、米国の AI・半導体株安が日本株に一律に波及したわけではないという事情がある。SOX 指数の 7.20%安は、インテルの業績見通しへの失望とアマゾンの AI 投資の膨張に対する採算懸念が重なったものだった。東京では、今期の利益見通しが市場予想を上回った東京エレクトロンをはじめ製造装置大手が買い戻される一方、メモリー価格の先行きに敏感なキオクシア HD や、AI 投資の負担が意識されるソフトバンク G は売られた。キオクシア HD とリクルート HD の 2 銘柄で 274.82 円の押し下げとなり、上げと下げの双方が少数銘柄に集中した。

NT 倍率（日経平均÷TOPIX）は 10 月 30 日の 15.96 から 16.05 へ上昇した（筆者算出）。値下がり銘柄が全体の約 3 分の 2 を占めたことを踏まえれば、市場全体の地合いは TOPIX の下落率の方がよく表している。

## 5．債券・金利

新発 10 年国債利回りは 2.770%と前営業日から横ばいだった。10 月 30 日に米金利低下を受けて 0.065%低下した後で、この日は米中間選挙を前に様子見が広がった。長期国債先物 12 月限は 126.82 円で寄り付き、126.71 円（-0.03）で引けた。年限別では 2 年債が 1.866%（-0.003）、5 年債が 2.210%（+0.003）、20 年債が 3.601%（+0.010）。5 年クライメート・トランジション国債の入札は最高利回りが 2.200%、応札倍率は 3.84 倍だった（筆者算出）。日銀は 10 月 30 日の会合で政策金利を据え置いたが、基調的な物価上昇率が 2%目標と概ね整合的な水準に達したとの判断を示し、12 月利上げの思惑がくすぶる。米 10 年債利回りは 10 月 30 日に 4.93%へ低下した。2 年債は 4.59%、30 年債は 5.31%。

## 6．為替・商品

ドル円は東京 15 時台に 157.78 円と、前営業日の同時刻から円安・ドル高となった。週末にホルムズ海峡でタンカーが被弾したと伝わり朝方は円買いが先行したが、米中間選挙を前にしたポジション調整のドル買いが優勢となり、一時 157 円 99 銭まで上昇した。片山財務相は過度に投機的な動きには対応する姿勢を示した。ユーロ円は 176.45 円。WTI 原油 12 月限は 10 月 30 日に 104.12 ドルと 2.08%上昇し、中東の緊張が原油価格を押し上げている。2 日はルビオ米国務長官がイラン攻撃は決まっていないと述べ、原油高は一服した。NY 金 12 月限は 3,898.9 ドルと 3.29%下落し、利上げ観測と株安に伴う換金売りが重なった。

## 7．海外市場の動向

10 月 30 日の米国市場は主要 3 指数がそろって下落した。インテルが第 4 四半期の見通しの弱さから約 29%急落し、アマゾンも AI 関連支出の増加が嫌気された。ナスダック総合は 2.86%安、SOX 指数は 7.20%安と続落し、ダウは 1.09%安にとどまった。2 日のアジア市場は総じて反発した。韓国 KOSPI は 2.24%高と 3 日ぶりに反発し、SK ハイニックスが 3.81%上昇した。上海総合指数は 1.08%高と反発し、当局による資本市場支援策の報道を受けて証券株が上昇した。香港ハンセン指数は 0.42%高と続伸した。

## 8．直近の推移

| 日付 | 日経平均 | 前日比 | TOPIX | 10 年債 | 売買代金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 月 28 日(水) | 63,954.19 | +685.82 | 3,991.71 | 2.825% | 8 兆 742 億円 |
| 10 月 29 日(木) | 64,659.47 | +705.28 | 4,003.28 | 2.835% | 13 兆 8,657 億円 |
| 10 月 30 日(金) | 63,290.11 | -1,369.36 | 3,965.07 | 2.770% | 8 兆 4,659 億円 |
| 11 月 2 日(月) | 63,081.86 | -208.25 | 3,930.28 | 2.770% | 7 兆 6,403 億円 |

## 9．総括と注目点

米国の AI・半導体株の急落を受けた週明けの東京市場は、決算を手掛かりにした個別選別が指数の下げを和らげた一方、市場全体では値下がり銘柄が大きく上回り、TOPIX は日経平均よりも大きく下げた。前週の上昇局面を主導した AI 関連への資金集中が、決算と米国株の動向次第で反転しやすい局面に入ったことを示す一日だった。

- 3 日投開票の米中間選挙の結果と、議会構成が財政・通商政策や米金利に与える影響
- 2 日夜の米 ISM 製造業景況指数（予想 54.7）、4 日の米 ADP 雇用統計と ISM 非製造業景況指数、6 日の米 10 月雇用統計
- 5 日の 10 年利付国債入札と日銀 9 月会合の議事要旨、6 日の植田総裁講演。12 月利上げ観測の強弱
- 国内主要企業の決算発表。半導体関連で決算内容による選別が続くか、ホルムズ海峡をめぐる原油動向

【脚注】東証プライムの騰落銘柄数は株探 16 時 13 分配信「東京株式（大引け）」と BigGo ファイナンスの値（505・1,011・36）を採用した。株探 15 時 32 分配信「日経平均 2 日大引け」の速報値は値上がり 502・値下がり 1,007・変わらず 37。売買代金・売買高は概算値。

11 月 2 日の新発 10 年債利回りは DZH「東京マーケットダイジェスト」のみで確認（単一出典）。10 月 30 日の 2.770%は共同通信と一致。フィスコ日次「日本国債市場」は 11 月 2 日を 2.759%、10 月 30 日を 2.756%と掲載しており、取得時点の違いとみられるため採用しなかった。2 年・5 年・20 年債利回りはフィスコ日次「日本国債市場」のみで確認（単一出典）、前日比は同系列の前営業日値から筆者算出。国債先物の寄付はフィスコ日次記事のみで確認（単一出典）。入札結果は財務省発表のみで確認（単一出典）、応札倍率は応募額÷募入決定額で筆者算出。

ドル円・ユーロ円の水準は DZH15 時台配信のみで確認（単一出典）。前日比は前営業日の同記事の水準との差で筆者算出。ナスダック総合の前日比はフィスコ等が-747.73 と表記しているが、前営業日終値 26,184.72（AP・DZH）との差で筆者算出した-747.72 を採用。米 10 年債はみんかぶ（4.929%）、DZH、ロイター（4.933%）で水準を照合し小数第 2 位で表示。前日比は DZH・みんかぶが-0.01、ロイターが-0.056、米財務省公表値が-0.04 と比較時刻により食い違うため、2 年・30 年債とともに水準のみ掲載。NY 金は COMEX12 月限の清算値で、フィスコの 3,892.10 ドルは清算値でないとみて採用しなかった。香港ハンセン指数は FX168 と金十データで確認し、前営業日終値は株探。SK ハイニックスの騰落率は Wikitree のみで確認（単一出典）。寄与度合計、2 銘柄除きの騰落、NT 倍率、キオクシア HD の下落率は筆者算出。

本レポートは生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆した。出典：株探、財経新聞（フィスコ）、みんかぶ、DZH・共同通信（OANDA 掲載）、松井証券、BigGo ファイナンス、stock-marketdata.com、財務省、Nasdaq、AP、News1、Wikitree、FX168、金十データ、外為どっとコム。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。